

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100288		
法人名	前橋市農業協同組合		
事業所名	グループホーム上陽		
所在地	群馬県前橋市中内町40-4		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度は、季節に合わせたイベントを企画している。 ・慰問の方達が月に3~4団体、施設に来られ、利用者様の楽しみが多く持てるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員が主体的に地域の団体やボランティアに働きかけ、協力を得て、幅広い年齢層と幅広いジャンルの慰問活動が活発に行われ、その数は月に3~4回に及んでいる。また、利用者の思いや意向を把握するために、月1回、話し合いの場を設けたり、個別に聞き取りを行ったりして、それらの希望を反映させ、食事のメニューに活かしたり、個別の外支援助を行ったりしている。職員にむけては、管理者は職員と個別面談を行い、職員の意見を積極的に汲み取って運営に反映させ、その結果として職員のケアに対する高いモチベーションが保たれている。また、介護職員が計画作成担当者と連携して、担当する利用者のモニタリング、介護計画の見直し案の作成に至るまで主体的に関わっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、以前に比べ出来ている。また、職員の行動理念も半年に1度のペースで個々に考えを見直し、管理者との共有もやっている。	理念に加え、職員の行動理念を策定している。行動理念は理念を実践する上で、メンタル面から職員の支えとなるもので、職員は半年に1回、自己評価を行って管理者に提出している。管理者は、日頃会議で行動理念や理念に照らし合わせながら実践を振り返り、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上陽納涼祭では、地域の方々にもご来場頂き、催し事を通し、利用者様との触れ合いを大切にしている。なるべくこのような機会を設け、更に交流を深めていきたい。	住民のグループ等に職員が積極的に働きかけるなどの方法で協力者を増やし、幅広い年齢層や幅広いジャンルの慰問となり、件数が月に3、4回に及んでいる。また、納涼祭には地域住民を招いたり、近隣保育園の園児と交流したりするなど、地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問に来て下さった団体の方に認知症の人の理解や接し方等を説明する事がある。今後、認知症の勉強会等を、地域の方に向け行いたいと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、取り組み内容の報告、意見交換を行い、参加者からの意見は、サービス向上に活かすよう努めている。	年6回の開催のうち、時には行事と会議の日程を合わせる方法で出席者を増やす努力をしている。出席者からの意見でおむつの調達方法を改善するなど、サービス向上に活かしている。また、地域の枠を広げてより多くの地域の方が関わられるよう現在検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険、事業運営に関する事で不明な点は、その都度問い合わせを行っている。市の方からもサービスに関する事で問い合わせがある事もあり、取り組み状況を伝えながら、協力関係を築くよう日々取り組んでいる。	市の担当者とは、空き情報を伝えたり、日常業務についての問い合わせを行ったり、連絡を取り合っている。また、地域包括支援センターと情報交換を行い、連携を図りながら運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を施設内に掲示する事により、以前よりも職員1人1人が身体拘束について正しい理解が出来るようになったと思う。	言葉による拘束も含めて、日常の事例等から具体的に取り上げ、職員間で話し合い、身体拘束についての理解を深め、気づきを大切にしながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無いが職員全員が日々注意しながら利用者観察を行っている。また、職員会議等の時間で身体的な虐待だけではなく、精神的な虐待もある事等の説明も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度のアフター研修にて学ぶ機会を持ち、理解を深めた。中々全職員が参加しての時間が作れない業種だけに、資料配布のみでの機会になった職員もいるので、個々の理解を深める為の取り組み等を模索していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、家族に納得や理解をもらった上で契約を行えている。介護保険改正の際も、その都度全利用者家族に説明を行い、納得・理解を図れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは月に1回、話し合いの時間を作り、ご家族へは2ヶ月に1回、運営推進会議で意見や要望を伺っている。出た意見は、運営に反映出来るよう努めている。また、面会時等にも何か意見があるか聞くようにしている。	月1回、利用者と話し合いの場を設けて要望を聞き、運営に反映できるように努めている。そのほか、個別に聞き取りを行ったり、日常のやりとりから意向を察したりしている。家族からは、運営推進会議や面会時の声かけを通じて意見を聞き、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談にて意見を聞く機会を設けている。出た意見は、運営に反映できるよう日々前向きに取り組んでいる。	職員会議や日頃のなかで意見聴取を行い、職員から出される意見やアイデアを尊重し、採り入れるようにしている。夏場のTPOをわきまえてのTシャツ着用や慰問者開拓など、職員の意見が反映されている。また、今年度から管理者との個別面談の場を設け、職員の意見聴取や意思疎通に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備や労働環境の整備にご尽力下さり、職員一同感謝している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多くの研修に参加出来るよう配慮している。その為、職員1人1人が少しずつスキルアップ出来ていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で行われる勉強会や研修には極力参加するように努めている。その為、以前よりも同業者とのネットワークが広がったと思う。また、参加して学んだ事は、他職員にも共有出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様は、様々な不安を抱え入居される事と思う。この時点で、少しでも不安を取り除けるよう話しを聞き、これから始まる施設での生活が、健やかに過ぎて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時や契約時に、出来るだけ家族の不安を少なく出来るよう努めている。入居後も何かあれば、こまめに報告行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時に何を必要としているのかを把握し、状況によっては他の施設サービスの利用を勧める事もある。出来るだけ本人と家族のその時の状況を把握するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人1人を尊重し、嬉しい事や楽しい事、悲しい事を一緒に共有出来るよう努めている。その為、利用者職員の間では、良い関係が築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会や外出等で家族と過ごす時間が持てるよう働きかけをしている。しかし、家族の都合もある為、中々会う機会が少ない方もいる。少しの時間でも会えるよう今後も働きかけを行い、全利用者の家族との絆を大切にしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上陽として開けた施設を目指しているので、家族の協力を得ながら、馴染みの人との交流の支援に努めつつ、新たな友人関係の構築に努めていく。馴染みの場所へは、本人の要望に応じ対応している。	生まれ故郷へドライブに出かけたり、利用者の出身地の住民グループに働きかけて慰問に来てもらい、そのなかで交流してもらおうなどしている。また、納涼祭など行事を通じて、家族や親せきの方の参加により、馴染みの人との関わりが持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりや関係性を把握し、楽しく仲間と過ごせるよう援助している。しかし、疾病により関係作りが困難な方もいる為、職員が仲介し、孤立しないよう日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、他施設に入所した方は、必ず面会に行くようにしている。また、家族にも何かあれば気軽に連絡して下さいとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、プラン変更や更新時等に、必ず本人に確認するようにしている。困難な場合は、家族の意向も踏まえ、本人本位に検討している。	一人ひとりの利用者の思いや意向については、担当職員を中心に把握するようにしている。管理者は、自ら意思表示ができない利用者の要望や意向を汲み取ることの重要性を、日頃職員に繰り返し伝えている。利用者との会話のなかから「釣り」を拾い上げ、外出支援に結びつけた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて生活歴やどのような暮らしをしてきたか確認している。また、どのようなサービスを利用してきたのかも確認を行い、把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の日中・夜間の様子、身体・精神状況等を申し送りや自分で勤務する事で利用者本人の現状把握をしている。また、個人で得た情報を他職員と共有出来るよう申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、他職員の意見も確認し、現在の状況にあった計画になっているかを見直し、本人の現在の状態に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングや3ヶ月毎の介護計画の見直しは、その過程で担当する介護職員が主体的に関わり、計画作成担当者と連携しつつ、家族の意向も取り入れて介護計画を作成し、見直しに繋げている。	日々の個別介護記録について、介護計画を反映した記載内容の工夫を行い、介護計画の作成から見直しに至るまでのプロセスがより明確になることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテ記入をしっかりとる事により、申し送り以外でも職員がカルテを見る事で情報の共有が出来ている。また、カルテの情報も参考にし、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、外出、買い物等、家族が行けない際には、職員で対応するようにしている。出来るだけ柔軟に対応するように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問者を招き、利用者が参加し、1人1人が楽しめるよう日々取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、今まで通りの医者には掛かる方、主治医を変更する方、必要に応じて往診を希望される方と、適切な医療が受けられるよう支援出来ている。入居途中であっても、往診への変更など柔軟に対応している。	2ヶ所の医療機関と提携して、往診を受けている。医療機関は利用者が選択できるようにしており、入居前からの主治医に引き続き受診する利用者もいる。通院介助は原則として家族に行ってもらうが、家族の都合や医師への状況説明のために、必要に応じて職員が介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で、医療に関する事は必ず看護師へ報告・確認を行い、夜間も急変時は看護師へ電話連絡を行い、指示を仰ぐようにしている。その為、看護師との連携は、うまく図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、家族や入院先の看護師やソーシャルワーカーとの連絡を取りながら、入院期間の確認、現在の状態、退院時の連絡調整を行い、病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、家族の理解を得ている。また、利用者の状態が悪化した際も、今後についてその都度説明を行い、家族との連携を図りながらサービス提供している。その為、家族の方も施設の方針を理解されている方が多いように思える。	医療・看護体制に制約があるため、経管栄養、喀痰吸引等が必要な場合は、対応することはできない旨を、利用者や家族に対して説明した上で、可能な限りホームでの生活ができるよう支援している。状態変化に伴い、意向を尊重し、医師や家族と連携のもと、現状でできる範囲で終末期ケアを実施し、過去1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度のアフター研修、外部での研修に参加し、知識を身に付けている。しかし、全職員が実践力を身に付けているとも言えない為、今後も定期的に訓練を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中・夜間を想定し、全職員が訓練出来るよう計画している。地域や入居者家族への通知やお声掛けを行い、家族や地域を巻き込み、訓練出来るよう試みているが、中々参加される家族や地域住民はいない。	年に2回夜間想定も取り入れ、初期消火・通報・避難誘導の一連の訓練を行っている。警備会社との契約により、災害時は避難誘導の支援を受けることができる。訓練時には、地域や家族の参加のため通知や声かけを行っているが、参加には至っていない。地域の避難所として指定され、毛布等の備蓄がある。	地域住民との良好な関係を活かし、協議をすすめ、災害時の相互協力体制を構築することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である為、1人1人を尊重し、言葉掛けには注意している。ただ、敬語が全てでは無いとも考える。時と場所、状況を鑑みた声掛けも必要である。定期的に職員会議でも皆に伝え、職員一同で注意するよう対応している。	利用者に対しては、人生の先輩であること、お客様であることを基本に、その人の性格や背景等に配慮した声かけや対応を行い、人格を尊重した関わりに努めている。管理者は、職員の介護場面を観察し、気づきを大切にしつつ、指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定が出来るよう、職員も意識し対応している。また、月に1度利用者様との話し合いの場を設け、思いや要望を聴取している。そこで出た意見は極力実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースは、大切にしようとしているが、状況によっては、職員優先で動いてしまう事がある。1日1日を有意義に過ごせるよう、そして、ご本人のペースで過ごせるよう職員一同注意し、対応していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、訪問理美容が来所し、頭髪の状況を鑑みて、もしくは本人の希望を聞き、ヘアカット行っている。また、男性利用者は入浴時の髭剃り、爪切り等の整容・身だしなみに配慮している。衣類も本人の要望に応じた衣類用意を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度の利用者様との話し合いで、食べたい物を聞き、提供するようにしている。また、調理員も利用者の好みや、検食での意見を参考にして、食事が楽しくて美味しい時間になるよう努力している。	重度化に伴い、直接的に調理に参加できる利用者はいないが、残存機能を活かして、食材の下ごしらえや食器拭きなどを行うようにしている。利用者から聞いたり、検食での意見を参考にしたりして、利用者の好みを反映させている。また、おやつも利用者の好みを聞き、楽しむことができるよう対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事を把握し、その人に合った量を提供するように心掛けている。また、高齢になると水分の摂取量も低下する為、出来るだけ多く水分摂取出来るよう、工夫をし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔ケアレベルに応じた声掛けや介助を行っている。必要時には、家族へ連絡し、歯科受診して頂いたり、緊急時には受診介助も行っている。今後、歯科往診に対しても検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	症状により、やむを得ない場合はオムツ対応させて頂いている。利用者様には、極力トイレでの排泄に努めさせて頂いている。	排泄の自立支援を個別に行っており、現在、日中におむつを着用している利用者はいない。例えば、トイレでのズボンの上げ下ろしが難しい利用者に対しては、利用者がトイレから合図ができるような工夫をして、できないところをサポートできるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、極力ヤクルトを提供し、さらには出来るだけ運動を出来るよう努めている。調理の方でも食物繊維の多い物の提供にも努め、工夫している。出来る限り、下剤を内服しなくてもいいよう、便秘予防の意識を持っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりとした楽しい気持ちで入浴出来るよう、入浴剤を使用したり、入浴者への声掛けの工夫を行っている。拒否の強い利用者にも入浴したくなるような声掛けを模索し、雰囲気作りをしていき、無理強いのないタイミングで入浴して頂けるようにしている。	利用者の希望や状態に応じて、週2回もしくは3回の入浴支援をしている。希望者には毎日入浴できるように、また、便失禁や発汗時には随時入浴できるようにしている。ゆったりと楽しい気持ちで入浴できるように、入浴剤を用いたり、声かけを行ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身状態を把握し、昼間でも休息が必要な方には、臥床して頂くように介助している。また、夜間良眠出来るような環境を整える為にも、室温や衣類にも配慮し、時にはBGMを活用し、安眠導入の働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報は、カルテに挿み、全職員がいつでも閲覧出来るようにしている。しかし、全職員が副作用、用法、用量を把握出来てはいないと思うので、アフター研修等で薬についての研修機会を設けたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や出来る事を把握し、それを活かした活動を提供し、職員が労ったり、盛り上げていく事で、役割や喜びを感じて頂いている場面が多くある。これからも生活歴等を踏まえた活動や会話を模索していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望する訴えに応じて、定期的な外出イベントを組む他に、職員体制に考慮しながら、突発的な外出援助を行っている。例えば、近くのスーパー、郵便局への外出から遠方へのドライブ、花見、催しへの参加もしている。	日常的には、天気の良い時には近所を散歩したり、デッキに出て外気に触れたりしている。月に1度外出行事を計画し、バラ園など時季に合わせた場所に出向いている。また、個々の希望を採り入れ、生まれ故郷へのドライブ、希望に応じた買い物を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていたいと要望のある方は、家族と相談し、了解を得られれば、ご自分で管理するようしてもらっている。外出行事の際には、預かったお金から食べ物等好きな物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは無いが、電話をしたいと訴えがあった際は、状況に応じて自ら電話で家族と話ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物を掲示し、季節感を取り入れている。掃除も各職員意識し、行き届いており、家族や見学者から「綺麗にしていますね。」とお言葉を頂く事が多い。利用者の方が過ごしやすい温度調整に心掛けており、居心地良く過ごせていると思う。	各所に設けられた天窓を用い、自然光を活かした明るさ、室温の調節を行っている。掃除が行き届いている。こども向けのような掲示物を避け、あくまで大人の生活空間を意識している。また、季節に合わせた飾り物を、利用者と一緒に作成し飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後、利用者同士で居間のソファーに座り、テレビ観賞したり、居間で休んでもらったりと、個々のペースに合わせて過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、入居時に家族と相談し、必要な方には使い慣れた物を持参して頂いている。その為、個々に合った居室空間になっている。	各居室は、ベッドの向きなど、利用者の状態等に配慮した配置となっている。また、利用者の使い慣れた小物や写真などが持ち込まれ、快適に過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、物の配置や掲示物の位置などは常に気に掛けている。その為、1人1人が生活しやすい安全な環境作りが出来ていると思う。		